

教員のみなさまのご意見をお聞かせください

## 町田市立小・中学校の教育環境に関するアンケート調査 質問紙

町田市教育委員会では、児童・生徒数の減少や学校施設の老朽化※に対応しながら、児童・生徒がより良い教育環境で学ぶことができるようにするために、2019年8月に「町田市立学校適正規模・適正配置等審議会（以下『審議会』）」を設置し、子どもたちの教育環境を充実させるために必要となる適正な学級数・学校配置のあり方や、学校統廃合も含めた通学区域の見直しなどについて検討することを予定しています。

※児童・生徒数の減少や学校施設の老朽化の状況については、2～3ページをご覧ください。

審議会では、PTA、町内会・自治会、町田市立小・中学校校長会の代表者と学識経験者で検討を進めていきますが、教員のみなさまの考え方や意識を把握し、審議会での議論を充実させることを目的として、本アンケート調査を実施することにいたしました。

調査は無記名であり、すべて統計的に処理し、他の目的には一切使用いたしませんので、お考えのままをご記入ください。

お忙しいところ誠に恐縮ですが、調査の主旨をご理解いただき、ぜひ調査にご協力いただきますようお願い申し上げます。

2019年6月  
町田市教育委員会

### ■回答いただくうえでの注意点

- ① 回答は、本質問紙を受け取った方がお答えください。
- ② 回答は、Webフォームから回答する方式になりますので、7月5日(金)までにWebフォームから回答ください。
- ③ Webフォームへのアクセス方法及び回答方法については、別紙「町田市立小・中学校の教育環境に関するアンケート調査 Webフォーム回答方法」を参照ください。
- ④ 回答に迷う場合には、回答者の考えにできるだけ近いものをお選びください。
- ⑤ アンケートに関するお問い合わせは、下記のお問い合わせ先までご連絡ください。

#### 【問い合わせ先】

町田市教育委員会教育総務課総務係  
電話：042-724-2172

**(参考 1) 町田市立小・中学校の児童・生徒数の推移と将来推計について**

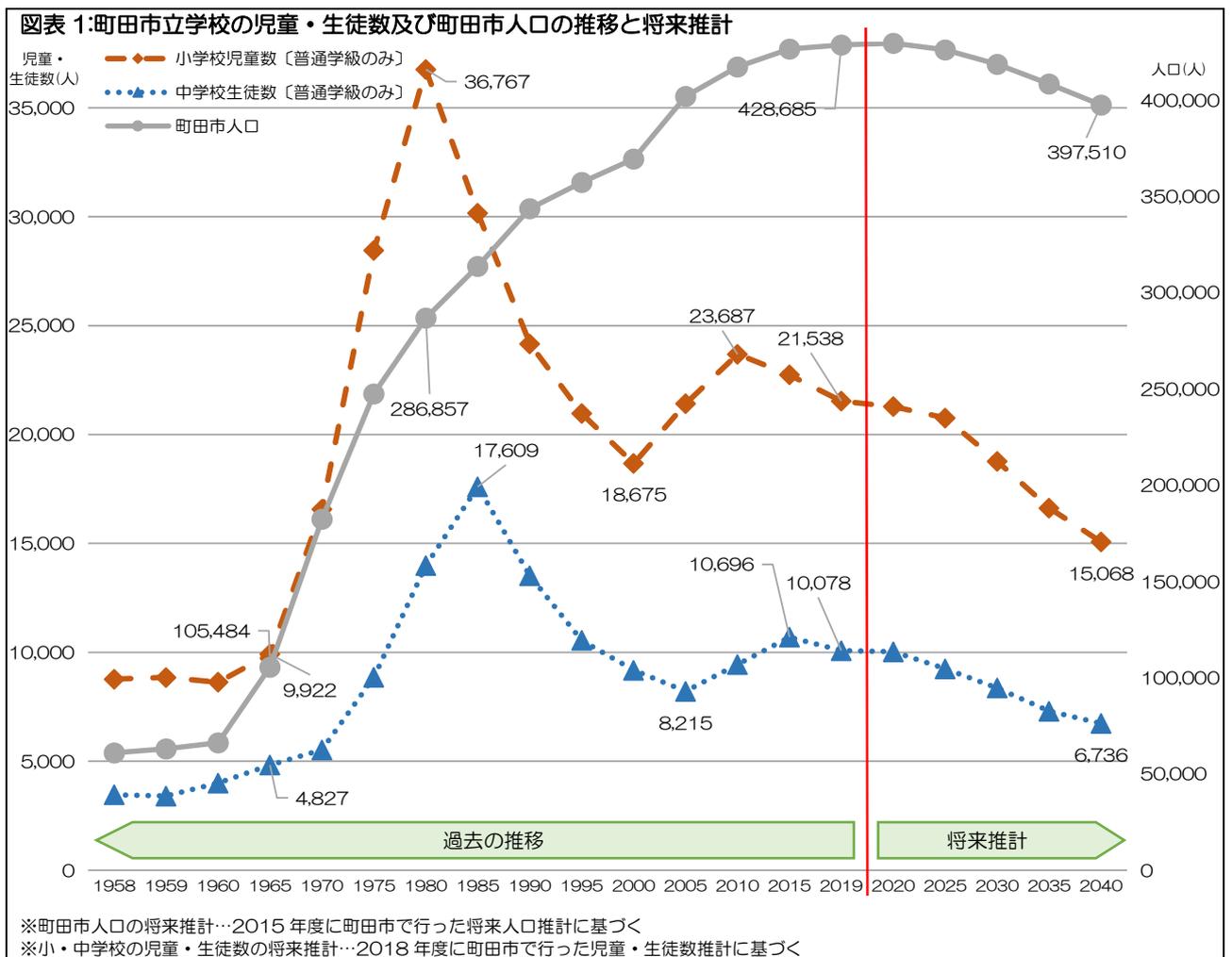
町田市は、高度経済成長期に大規模団地が建設されたことなどによって転入者が大幅に増加し、1960年代後半から児童・生徒数が大幅に増加しました。

その後、大規模団地の子どもたちが小・中学校を卒業したことで1980年代から1990年代にかけて児童・生徒数が大幅に減少したことから、2001～2003年度に44校あった小学校を39校に統廃合し、2010年度には中学校1校を閉校しています。

その一方、大規模開発によって特定の地域の人口が大幅に増加したことで2000年代に児童・生徒数が再び増加に転じたことから、小学校を2005～2010年度の間に3校、中学校を2012年度に1校開校しました。

しかし、出生数の減少（少子化）の影響によって小学生は2010年度、中学生は2016年度をピークに減少に転じ、2019年度の児童・生徒数は、小学生が約2.2万人、中学生が約1万人まで減少しています。

今後の児童・生徒数推計では、2040年度には小学生が約1.5万人（2019年度比：△30%）、中学生が約7千人（2019年度比：△33.2%）となることが見込まれていることから、人口減少社会における児童・生徒の教育環境について長期的な視点から検討する必要があります。



**(参考2) 町田市立小・中学校施設の老朽化について**

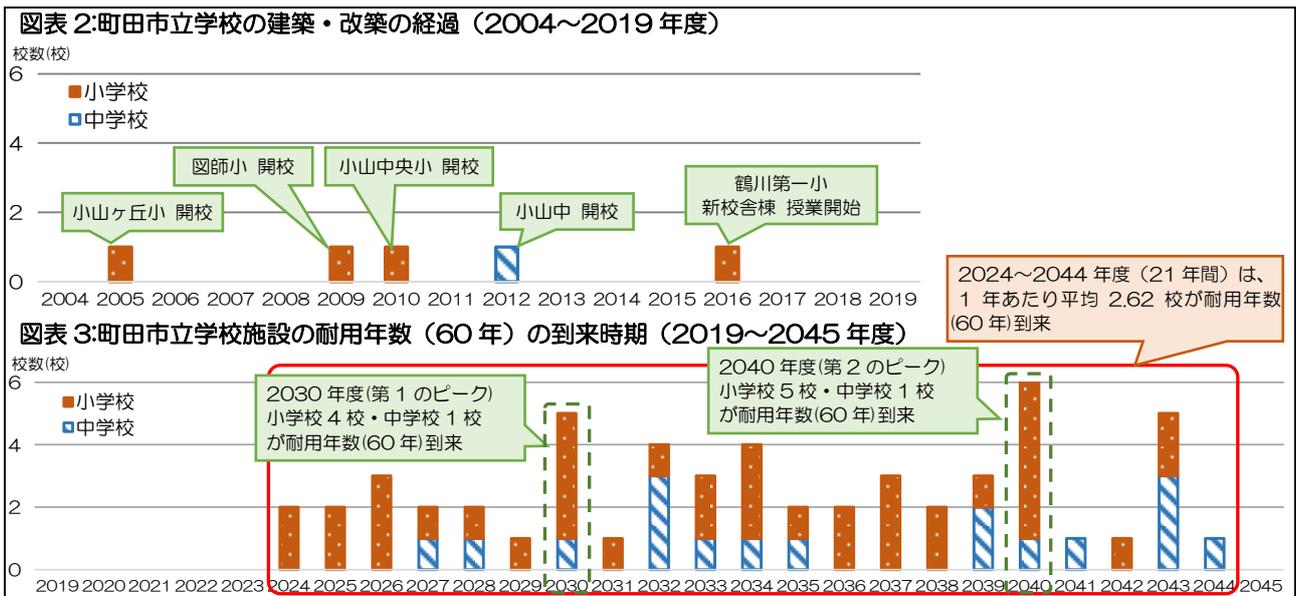
町田市では、高度経済成長期における児童・生徒数の大幅な増加に対応するために 1970 年代に建築した小・中学校施設の老朽化が大きな課題となっています。

文部科学省が 2013 年 3 月にまとめた「学校施設の老朽化対策について」によると、全国の公立小・中学校のうち、鉄筋コンクリート造（耐用年数 60 年）の学校施設を建て替えるまでの平均年数は約 42 年となっています。

しかし、町田市立小・中学校は、2019 年 4 月時点で築 42 年を超える校舎のある小・中学校が 62 校のうち 37 校あり、2024～2044 年度の 21 年間に、耐用年数である 60 年が到来する校舎のある小・中学校が 55 校あります。

この 55 校について、現在建て替えを進めている鶴川第一小学校（約 43.4 億円）、町田第一中学校（約 55.2 億円）と仮に同じ費用で建て替えた場合、2024～2044 年度の 21 年間で約 2,588 億円が必要になります。

この建て替え費用を削減・平準化しながら、将来にわたって子どもたちの学校における安全を確保するとともに、未来の教育活動に対応できるよう教育環境を充実させていくためには、長期的な視点から建て替えや改修する学校施設の優先順位を検討し、計画的に更新していく必要があります。



※町田市立小・中学校別の建築年度及び建築年度からの経過年数は 9 ページの補足資料をご参照ください。

**★4 ページからアンケート調査の設問になります。**

※設問を読みながら Web フォームで回答をお願いします。

## あなた（回答者）について

問 1：あなたが勤務している学校の校種を選択してください。

問 2：あなたが勤務している学校名を選択してください。

問 3：あなたの役職等を選択してください。

問 4：あなたは、これまで法令で定める標準を下回る学級数（1 校あたり 11 学級以下）の学校で勤務した経験の有無を選択してください。

## 小・中学校の学級数について

問 5：1 学年あたりの学級数が少ない小規模な学校の教育活動におけるメリット・デメリットについて、あなたの考えにあてはまるものを選択してください。

### 【小規模な学校のメリット】

調査項目		そう思う	少し思う	どちらでもない	あまり思わない	そう思わない
(1)	子どもたちの人間関係が深まりやすい	5	4	3	2	1
(2)	学校行事や部活動等で子どもたちに個別の活動機会を設けやすい	5	4	3	2	1
(3)	異学年間の教育・交流活動を設けやすい	5	4	3	2	1
(4)	教員の目が届きやすく、きめ細かな指導をしやすい	5	4	3	2	1
(5)	ICT 機器などの授業で使用する教具を一人一人に行き渡らせやすい	5	4	3	2	1
(6)	学校と保護者・地域社会が連携した教育活動を展開しやすい	5	4	3	2	1

※上記以外に小規模な学校のメリットがあると思う方はその内容をご入力ください。

### 【小規模な学校のデメリット】

調査項目		そう思う	少し思う	どちらでもない	あまり思わない	そう思わない
(1)	子どもたちの人間関係や相互の評価などが固定化しやすい	5	4	3	2	1
(2)	多様な考え方に触れる機会や学びあいの機会、切磋琢磨する機会が少なくなりやすい	5	4	3	2	1
(3)	集団活動や学校行事に制約が生じやすい	5	4	3	2	1
(4)	習熟度別学習やグループ学習など多様な学習形態がとりにくい	5	4	3	2	1
(5)	部活動等の設置が限定され、選択の幅が狭まりやすい	5	4	3	2	1
(6)	PTA 活動等における保護者 1 人あたりの負担が大きくなりやすい	5	4	3	2	1

※上記以外に小規模な学校のデメリットがあると思う方はその内容をご入力ください。

問 6：小規模な学校において教員が少なくなることによる学校運営上の課題について、あなたの考えにあてはまるものを選択してください。

調査項目		そう思う	少し思う	どちらでもない	あまり思わない	そう思わない
(1)	子どもたちの良さが複数の教員から多面的に評価されにくい	5	4	3	2	1
(2)	教員同士が切磋琢磨する環境を作りやすく、指導技術の相互伝達（人材育成）がなされにくい（学年会や教科会等が成立しない）	5	4	3	2	1
(3)	教員一人あたりの校務負担や学校行事に関する負担が重く、課題が生じやすい	5	4	3	2	1

※（4）と（5）は中学校の教員のみ回答をお願いします。

(4)	中学校の部活動の指導者確保が困難となりやすい	5	4	3	2	1
(5)	中学校の教員定数上、教員ごとに受け持つ授業時間数に不均衡が生じやすい	5	4	3	2	1

※上記以外に小規模な学校の学校運営上の課題があると思う方はその内容をご入力ください。

問 1 で「小学校」を選んだ教員の方にお聞きます。

問 7-1：今後、少子化の進行により小規模な小学校が増えることが予測されますが、1 学年あたりの学級数は、何学級が望ましいと思いますか。（1 つ選択）

※町田市立小学校の 1 学年あたり学級数の状況は資料 1 をご確認ください。

(1) 1 学級 (2) 2 学級 (3) 3 学級 (4) 4 学級 (5) 5 学級以上

※差し支えなければ、その学級数を選択した理由をご入力ください。

問 1 で「中学校」を選んだ教員の方にお聞きます。

問 7-2：今後、少子化の進行により小規模な中学校が増えることが予測されますが、1 学年あたりの学級数は、何学級が望ましいと思いますか。（1 つ選択）

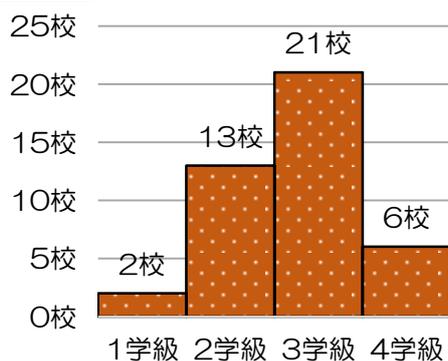
※町田市立中学校の 1 学年あたり学級数の状況は資料 1 をご確認ください。

(1) 1 学級 (2) 2 学級 (3) 3 学級 (4) 4 学級 (5) 5 学級  
(6) 6 学級 (7) 7 学級 (8) 8 学級 (9) 9 学級以上

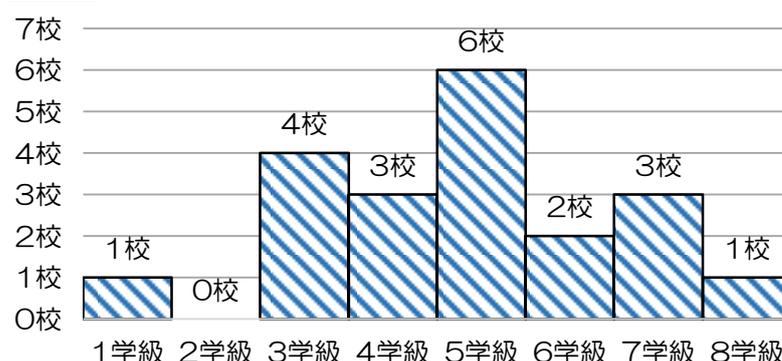
※差し支えなければ、その学級数を選択した理由をご入力ください。

【資料 1】町田市立小・中学校の 1 学年あたり平均学級数の分布（2019 年度）

小学校



中学校



## 子どもの通学時間や通学方法について

問 1 で「小学校」を選んだ教員の方にお聞きします。

問 8-1：小学生の片道の通学時間は、どのくらいの時間までが許容範囲だと思いますか。

(1つ選択)

※町田市立小学校における最長通学時間の児童の状況は資料 2 をご確認ください。

- (1) 15分程度 (2) 30分程度 (3) 45分程度 (4) 45分以上

※差し支えなければ、その通学時間を選択した理由をご入力ください。

問 1 で「中学校」を選んだ教員の方にお聞きします。

問 8-2：中学生の片道の通学時間は、どのくらいの時間までが許容範囲だと思いますか。

(1つ選択)

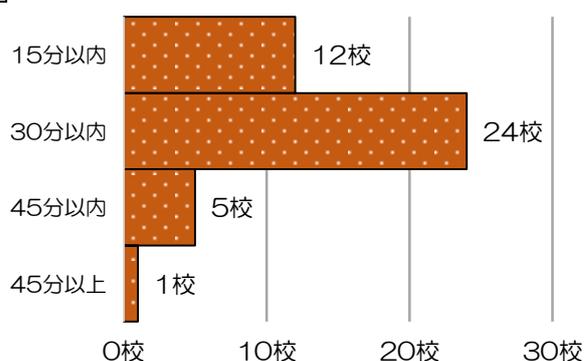
※町田市立中学校における最長通学時間の生徒の状況は資料 2 をご確認ください。

- (1) 15分程度 (2) 30分程度 (3) 45分程度 (4) 45分以上

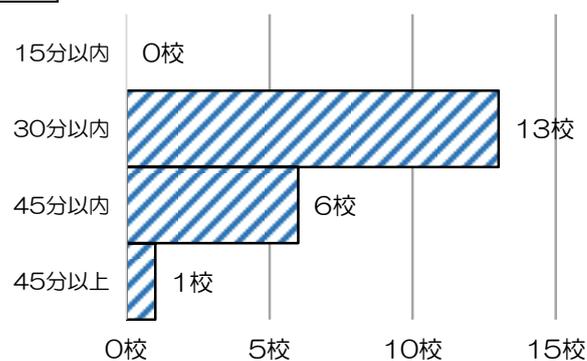
※差し支えなければ、その通学時間を選択した理由をご入力ください。

### 【資料 2】町田市立小・中学校における徒歩の場合の最長通学時間の分布 (2018 年度)

小学校



中学校

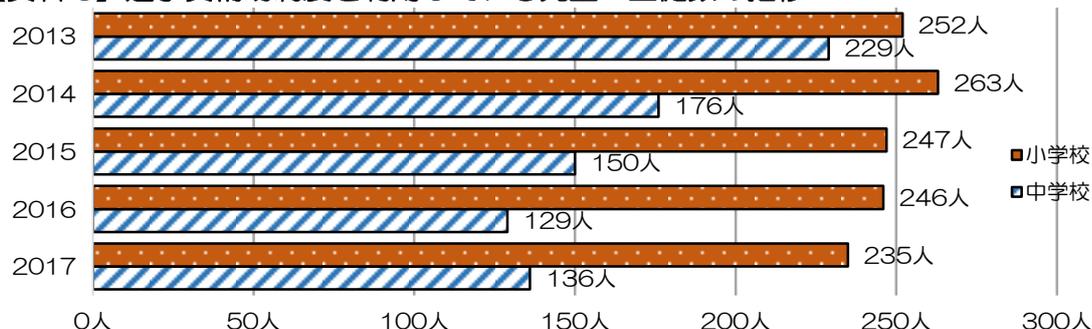


問 9：問 8 でお答えいただいた通学時間の範囲で子どもたちが通学をするために、どのような配慮が必要だと思いますか。(複数選択可能)

※町田市立学校の児童・生徒の通学費補助制度\*の利用状況は資料 3 をご確認ください。

- (1) 住所から近い場所にある学校への通学を認める  
 (2) 公共交通機関 (バスなど) の利用を認める (3) スクールバスを運行する  
 (4) 自転車の利用を認める (5) 徒歩で構わない  
 (6) その他 ( )

### 【資料 3】通学費補助制度を利用している児童・生徒数の推移



※:通学距離がおおむね小学校 1.5km、中学校 2km 以上で、公共交通機関を利用して通学している児童・生徒の保護者に交通費の一部を補助する制度です (就学指定校以外に通学している児童・生徒を除きます)。

### 学校施設の老朽化について

問 10：3 ページにもあるとおり、町田市の学校施設の老朽化が進行しています。学校施設が老朽化によって発生する問題のうち、重要な問題は何だと思えますか。  
(複数選択可能)

- (1) 災害等で施設が壊れやすくなり、子どもたちの安全確保ができなくなる恐れがある
- (2) 施設が 40～50 年前の考え方で設計されているため、教育内容・方法の変化に対応できず、子どもたちの教育環境を充実させることが難しくなる
- (3) 電気・ガス・水道などの設備が故障した場合に、学校が使用できなくなる恐れがある
- (4) 災害等の発生時に地域の避難施設として使用できなくなる恐れがある
- (5) その他 ( )

問 11：少子化と学校施設の老朽化が進行している状況において、限られた財源の中で学校施設の安全を確保するとともに、未来の教育活動に対応できるよう教育環境を充実させていくためには、どのような考え方で建て替え（改築）を進める必要があると思えますか。  
(1 つ選択)

- (1) 市民の負担が増えても、すべての学校を建て替える
- (2) 地域ごとに建て替える学校を決めて、重点的に投資して建て替える
- (3) 建て替えは行わず、市民の負担が増えない範囲で、改修できる箇所だけ改修する
- (4) その他 ( )

### 通学区域の見直しを検討するうえでの配慮について

問 12：少子化による児童・生徒数の減少や学校施設の老朽化に対応するために、学校統廃合を含めた通学区域の見直しについて、審議会を設置して検討することを予定しています。検討するうえで、子どもの教育活動（特別支援教育含む）や通学などの視点から配慮する必要があることは何だと思えますか。web フォームの自由記述欄に入力してください。

設問は以上です。ご協力ありがとうございました。

※7月5日（金）までに Web フォームで入力して回答をお願いします。

(補足資料) 町田市立小・中学校別の児童・生徒数・学級数推計及び建築年度からの経過年数

小学校	児童数※1			学級数※2			建築情報※3	
	2019	2030	2040	2019	2030	2040	建築年度	経過年数
1 町田第一	628	676	781	19	21	24	1969	50
2 町田第二	381	466	505	13	14	18	1964	55
3 町田第三	474	376	293	15	12	12	1965	54
4 町田第四	544	489	470	18	16	14	1971	48
5 町田第五	559	562	494	18	18	18	1966	53
6 町田第六	254	281	209	12	12	7	1964	55
7 南大谷	641	634	510	18	19	18	1973	46
8 藤の台	498	363	277	16	12	12	1972	47
9 本町田東	226	214	177	8	7	6	1970	49
10 本町田	375	304	183	12	12	6	1977	42
11 南第一	628	719	565	19	21	18	1965	54
12 南第二	341	315	267	12	12	12	1978	41
13 南第三	376	346	320	13	12	12	1970	49
14 南第四	509	470	416	17	14	12	1966	53
15 つくし野	374	339	240	12	12	10	1970	49
16 小川	470	406	316	15	12	12	1974	45
17 成瀬台	639	643	483	19	20	17	1974	45
18 鶴間	598	606	668	17	18	20	1976	43
19 高ヶ坂	345	277	190	12	12	6	1978	41
20 成瀬中央	341	348	223	12	12	7	1979	40
21 南成瀬	395	263	241	12	11	9	1980	39
22 南つくし野	710	908	723	23	27	23	1980	39
23 鶴川第一	796	604	373	24	19	12	2015	4
24 鶴川第二	517	359	334	18	12	12	1973	46
25 鶴川第三	466	395	378	14	12	12	1967	52
26 鶴川第四	564	482	420	18	17	14	1970	49
27 金井	545	429	323	17	14	12	1977	42
28 大蔵	750	550	428	23	18	14	1980	39
29 三輪	554	552	425	18	18	12	1982	37
30 忠生	464	375	311	15	12	12	1966	53
31 小山田	318	270	217	12	12	8	1980	39
32 忠生第三	562	520	382	18	18	12	1974	45
33 山崎	365	308	249	12	12	12	1980	39
34 小山田南	588	302	219	18	12	8	1983	36
35 木曾境川	461	305	184	15	12	6	1977	42
36 七国山	650	409	279	19	12	12	1975	44
37 函師	591	447	279	18	13	12	2008	11
38 小山	816	737	500	25	23	18	1976	43
39 小山ヶ丘	858	671	495	25	21	15	2004	15
40 小山中央	801	559	330	24	18	12	2009	10
41 相原	430	408	343	13	12	12	1968	51
42 大戸	136	85	50	6	6	6	1983	36
合計	21,538	18,775	15,068	684	619	526		

中学校	生徒数※1			学級数※2			建築情報※3	
	2019	2030	2040	2019	2030	2040	建築年度	経過年数
1 町田第一	717	652	633	20	19	19	1962	57
2 町田第二	475	529	475	14	15	13	1972	47
3 町田第三	388	343	232	12	11	7	1967	52
4 南大谷	447	511	416	13	14	12	1974	45
5 南	665	649	530	18	19	16	1968	51
6 つくし野	717	841	661	20	23	19	1975	44
7 成瀬台	394	432	304	12	12	9	1979	40
8 南成瀬	520	351	334	14	11	10	1981	38
9 鶴川	594	396	307	16	12	9	2001	18
10 鶴川第二	757	591	540	20	16	16	1972	47
11 薬師	327	211	164	9	6	6	1970	49
12 真光寺	328	222	201	10	7	6	1980	39
13 金井	479	369	285	14	11	9	1984	35
14 忠生	708	528	403	19	15	12	1973	46
15 山崎	297	191	140	9	6	6	1979	40
16 木曾	291	202	131	9	6	6	1983	36
17 小山田	488	267	221	15	9	7	1983	36
18 小山	835	579	380	23	17	12	2011	8
19 堺	570	455	346	16	14	10	1972	47
20 武蔵岡	81	46	33	3	3	3	1983	36
合計	10,078	8,364	6,736	286	246	207		

本表は、市立小・中学校別の2040年度までの児童・生徒数推計と各校の最も古い校舎を基準とした建築情報をまとめた一覧表です。各項目の読み方については、下記の注記をご覧ください。

※1 児童数・生徒数

2019年度…5月1時点の児童・生徒数  
2030年度・2040年度…2018年度に行った児童・生徒数推計結果

※2 推計にあたっての学級編制基準

小学校:1・2年生は、35人につき1学級、3～6年生は40人につき1学級  
中学校:1年生は35人につき1学級、2・3年生は40人につき1学級

※3 建築情報

最も古い校舎を基準とした建築年度と建築年度から2019年度までの経過年数